

# 在宅医療・介護多職種連携協議会 研修部会

～報告～

平成28年10月27日

## 目 的

在宅医療に係る多職種連携の推進のための研修体制について検討する。

○顔の見える関係会議や在宅医療研修の内容について検討

○その他の研修（各団体主催研修会の連携・調整など）  
について検討

### <顔の見える関係会議>

第1回（通算17回目） 介護系 『認知症の早期発見・早期対応に向けて多職種ができること』

第2回（通算18回目） 医療系 『緩和ケア病棟と在宅チームの連携による本人家族への支援のあり方』

第3回（通算19回目） エリア別 『高齢者の救急搬送の現状と課題について』

第4回（通算20回目） アドバンス系 『意志決定支援について(案)』

# 第2回(通算18回目)顔の見える関係会議報告

◎第2回(通算18回目) 顔の見える関係会議

新たな参加者の割合 41%!

開催日時:平成28年8月25日(木) 午後7時~9時

内容:①グループワーク『緩和ケア病棟と在宅チームの連携による本人・家族への支援のあり方』

②ミニレクチャー『緩和ケアの理念と緩和ケア病棟の役割』

『柏市民のためのがんサポートハンドブック』

参加者:総数158名

医師21名(診療所17名, 病院4名), 歯科医師6名・歯科衛生士3名

薬剤師12名, 看護師22名(訪問看護11名, 病院診療所11名)

医療ソーシャルワーカー9名, 精神保健福祉士1名, 管理栄養士3名

介護支援専門員10名, 地域包括支援センター職員10名, リハビリ職12名

介護サービス事業者17名(介護老人保健施設2名, 介護老人福祉施設2名,

有料老人ホーム1名, サービス付高齢者住宅2名, ケアハウス0名,

小規模多機能型居宅介護3名, 定期巡回・随時対応型訪問介護看護1名, 訪問介護6名)

厚労省6名, 県内自治体職員7名, 東京大学3名, 他2名, 柏市職員14名

グループワークの様子



グループワーク例



# 内容について

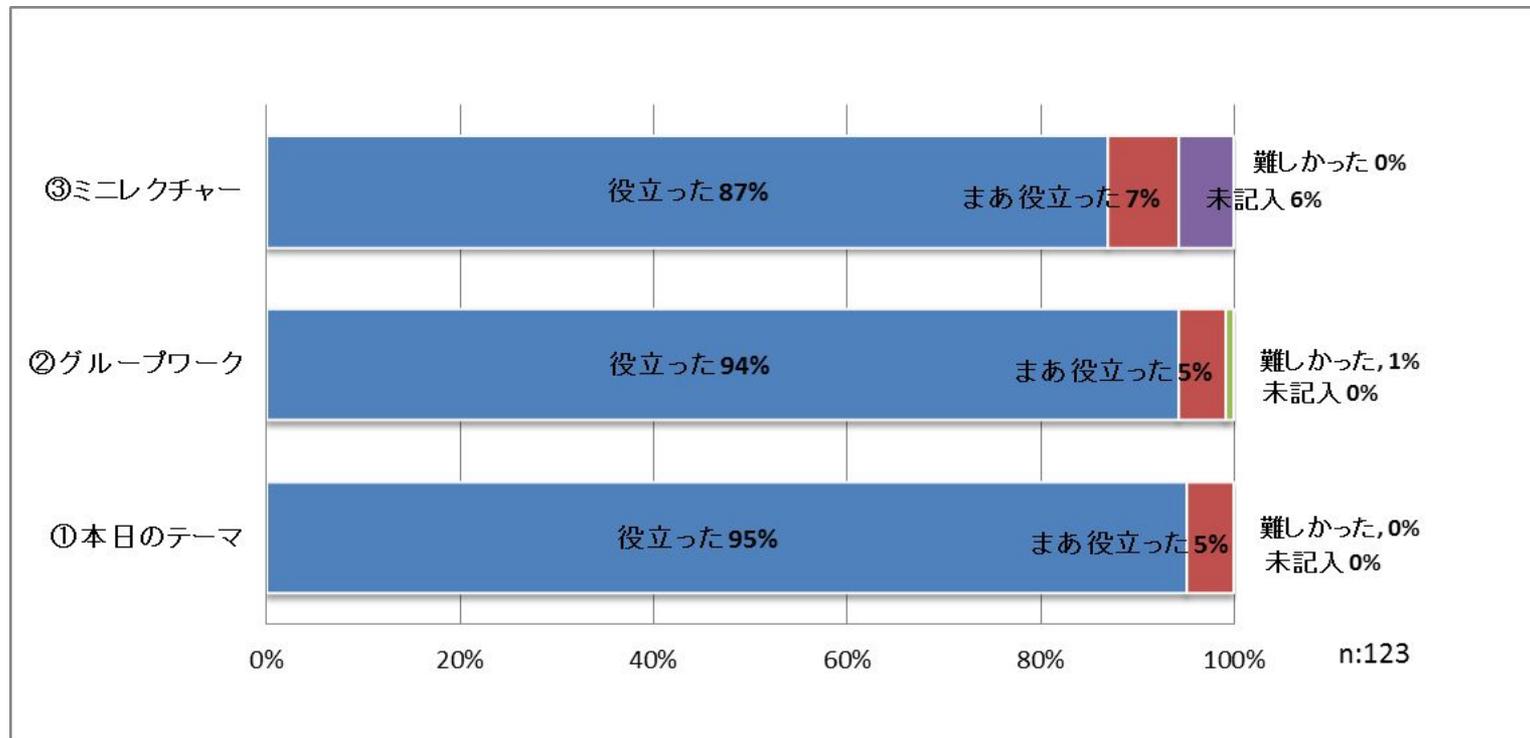
## ①本日のテーマ ②グループワーク

『緩和ケア病棟と在宅チームの連携による本人・家族への支援のあり方』

## ③ミニレクチャー

『緩和ケアの理念と緩和ケア病棟の役割』

『柏市民のためのがんサポートハンドブック』



アンケートの結果、それぞれの内容について、  
約98%の方が「役に立った」「まあ役に立った」と回答した

# 会議内容等に関する感想・意見等(抜粋)

診療所医師	緩和ケアは、情報共有しながらチームとしてスピーディな対応が重要と再認識した。各班から多岐に渡る着眼点を勉強できた。
病院医師	一人の人を支えるのに、これだけたくさんの人や職種があることを知るだけでも、患者さんを含めて心強く感じる。
歯科医師	視点の違いによるものの見方に新鮮味を感じた。
薬剤師	患者だけでなく、家族一人一人へできることが何かあるかもしれないと考えるきっかけになった。事例紹介がとてもリアリティがあり自分の立場だったらと考えさせられた。
訪問看護師	ご自宅で死を迎える方が多い中、色々と考えるいい機会だった。連携の必要性を再確認でき、今後のケアに活かしたい。
介護支援専門員	緩和ケアは決して特殊ではなく、全員ができるというミニレクチャーが印象的だった。市内に頼れる専門職がいて、とても心強い。
訪問介護	多様な在宅ケアに関わる方と関わることにより、自分の思考のかたよりを再確認できた。大事なものは「チーム力」ですね。 全ての職種のつながりが、本当に大切なことなのだと感じた。
リハビリ職	皆様の熱気に圧倒された。緩和に対しては、医療ー介護，在宅ー病院それぞれの連携が重要であることを再認識できた。



**緩和ケア病棟と在宅チームで本人・家族を支えるために、多職種連携が重要であることを共有でき、緩和ケアへの理解が深まった。**

# 第8回 柏市 在宅医療推進のための 地域における多職種連携研修会-開催報告-

日程：平成28年9月25日(日) , 10月16日(日)

場所：柏地域医療連携センター

受講者数 60名

傍聴者数 1日目：32名, 2日目：35名

主催：柏市医師会、柏市

共催：柏歯科医師会、柏市薬剤師会、柏市訪問看護ステーション連絡会、柏市介護支援専門員協議会、  
柏市在宅リハビリテーション連絡会、東葛北部在宅栄養士会、柏市介護サービス事業者協議会

受講者（職種別）：医師9名、歯科医師6名、薬剤師6名、看護師10名、MSW1名、リハビリ職5名、  
管理栄養士5名、介護支援専門員6名、地域包括支援センター職員7名、介護サービス事業者5名

## 1日目) 平成28年9月25日終日

- ・ 柏市における在宅医療の取り組み
- ・ 多職種連携協働：IPW（講義）
- ・ 在宅生活を支える多職種プレゼンテーション
- ・ 認知症の行動心理徴候の基本的理解（講義・GW）
- ・ 摂食・嚥下障害の基礎的知識と対応（講義）
- ・ 柏市における在宅での口腔ケア（講義）
- ・ 在宅での褥創ケア（講義）
- ・ 柏市における訪問リハビリテーション（講義）
- ・ **グループワーク**  
（口腔ケア・褥瘡ケア・訪問リハビリテーション）
- ・ 意見交換会

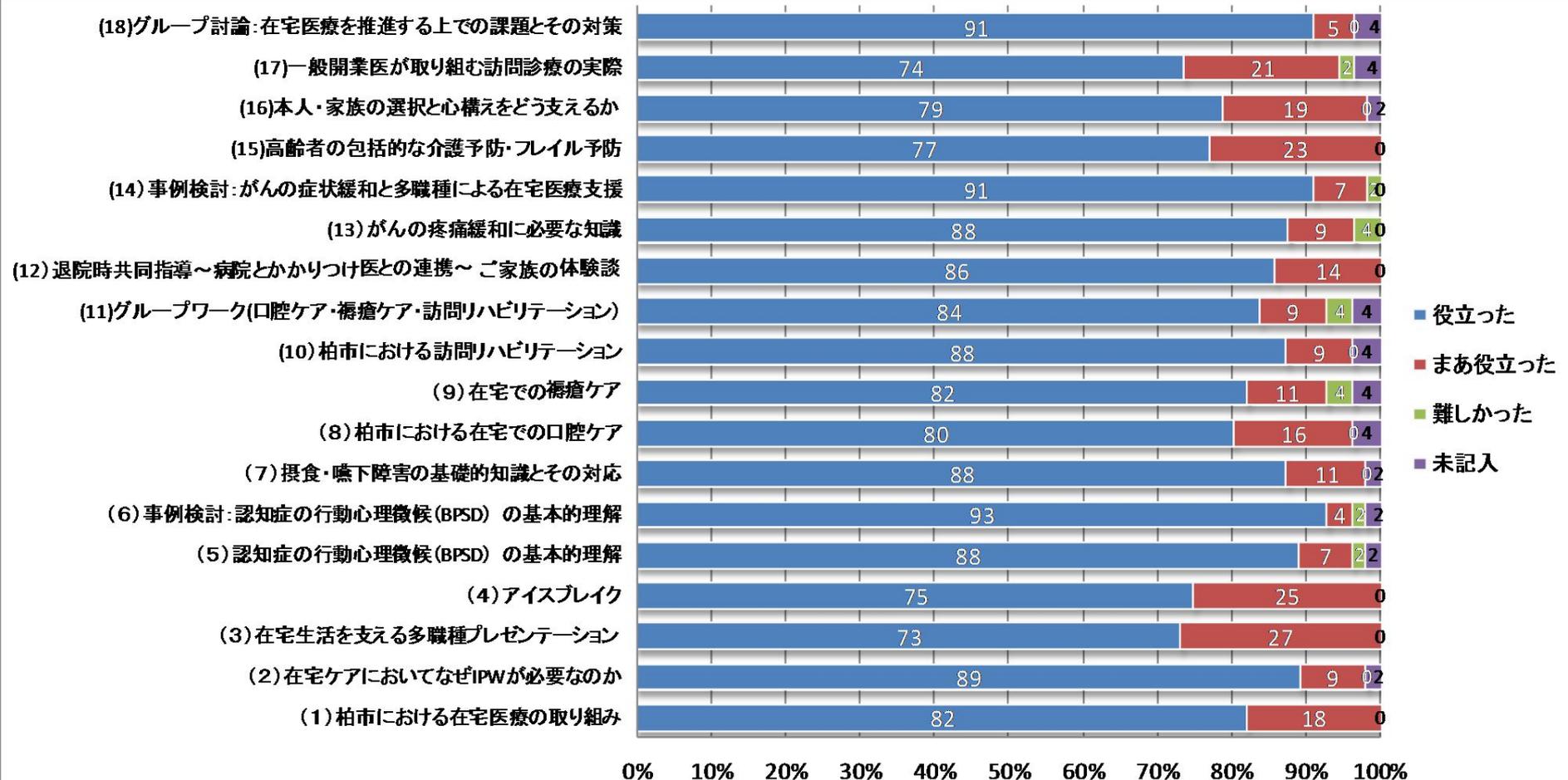
## 2日目) 平成28年10月16日終日

- ・ **退院時共同指導** ご家族の体験談（講義他）
- ・ がんの疼痛緩和（講義・GW）
- ・ 高齢者の包括的な介護予防・フレイル予防  
（講義）
- ・ 本人・家族の選択と心構えをどう支えるか  
（講義・GW）
- ・ 一般開業医が取り組む訪問診療の実際  
（講義）
- ・ 在宅医療を推進する上での課題とその対策  
（GW）
- ・ 修了証書授与

\* GW：グループワーク

(実地研修) ・ 医師のみ概ね3時間程度/回。原則として、研修1日目と2日目の期間で1回実施

# 内容について



アンケートの結果, それぞれの内容について,  
**約97%以上**の方が「役に立った」「まあ役に立った」と回答

## 研修会内容等に関する感想・意見(新たな单元等より抜粋)

### ○新たな单元「グループワーク(口腔ケア・褥瘡ケア・訪問リハビリテーション)」

医師	職種毎の意見が聞けて興味深かった。
薬剤師	他職種の仕事をわかってない事に気付けた。お互いの仕事の重要性を分かりあうことも大事。
リハビリ職	各職種の困っている点を知ることができた。情報共有の大切さを学んだ。

### ○新たな单元「退院時共同指導～病院とかかりつけ医との連携～ ご家族の体験談」

介護支援専門員	病院の意識や介護につなげる姿勢の変化を感じ、とてもありがたい。
管理栄養士	実際に体験したご家族がどれだけ在宅にして良かった！と感じているかが分かり、在宅医療の重要性を再確認できた。
病院(看護師)	退院時共同指導が、患者様や家族に安心していただける大事なことと改めて認識した。またご家族の生の声はとても感動した。

### ○全般

医師	在宅医療を遂行する上での仲間が多数いることがわかり心強い。
歯科医師	他の職種の話しが聞け、大変有意義な時間だった。
介護職	様々な専門職が携わり在宅医療が成り立っていることが改めて認識できたし、在宅医療を支えるため多職種が熱意をもって仕事に取り組まれていることが分かり、自身への励みとなった。

 在宅医療の推進及び多職種連携の促進の機会になっている

## 平成28年度 今後の活動予定

### <部会>

・第2回 平成29年3月10日(金)

(内容)平成28年度活動内容の評価と次年度にむけて

### <顔の見える関係会議>

	開催日時	テーマ	会場
第19回目	平成28年11月18日(金) (光ヶ丘・柏南部・柏南部第2・沼南包括)	エリア別 「高齢者の救急搬送の現状と課題について」	沼南庁舎
	平成28年11月22日(火) (柏北部・北柏包括)		ウェルネス柏
	平成28年11月25日(金) (柏西口・柏東口・柏東口第2包括)		柏地域医療連携センター
第20回目	平成29年2月16日(木)	意志決定支援について	柏地域医療連携センター